

ベストプリントのために、EIZO CG241WとキヤノンPIXUS Pro9500を使う。

EIZO CG241WとキヤノンPIXUS Pro9500は、プロユースの優れたものです。この2つの優れた機器を上手く使いこなすためには、カラーマネージメントの運用がポイントです。そこで、ベストプリントを作るための手順をステップごとに解説しましょう。ここでは、Windowsを基本として解説いたします。

STEP 1

環境作りから始めよう!

よく、モニターで見たようにプリントできないという声を聞きます。まずは、パソコンのモニターを置く部屋の環境をチェックし、最適環境を作りましょう。

モニターはどこに置くか?

いくら優れたモニターを購入しても、置き場所が悪ければ、きちんとした色で見ることができません。窓の正面や、窓を背にした状態は、モニターの設置場所として適していません。また、照明の光がモニターに直接当たるのも避けなければなりません。モニターは、できるだけ窓際から離れた場所に置きましょう。場所が確保できない場合は、カーテンをして光を遮るだけでも効果大です。また、遮光フードは必須アイテムです。

モニターに映り込みはないか?

モニターを置いたら、モニターに映り込みがないかチェックしましょう。カラフルなカーテンや壁紙などが映り込んでいては、正確な色を見ることはできません。カーテンの色は、グレーか黒がベストですが、黒い模造紙でも代用することができます。

室内の照明は何を使う?

プロの場合、印刷目的のため厳密な色管理を求められます。当然、部屋の蛍光灯にも十分配慮し、色評価用の高演色性の蛍光灯（D50：色温度5000K/演色指数90以上）を使用しています。まずは、部屋の照明をチェックしてみましょう。白熱灯や赤みの強いウォーム色、青みの強いクール色の蛍光灯では正確な色を見ることができません。一般家庭用の蛍光灯は、円形の三波長蛍光管を使用しているはずですが、それなら、部屋の蛍光灯を昼白色かナチュラル色に変えることをお勧めします（色温度は5200Kくらい）。厳密なものではありませんが、最低限妥協できる対策です。一般家庭で、プロのように厳密な作業環境を作るのはとても難しいですが、まずはできる範囲で環境作りを始めましょう。

輝度 液晶モニターの輝度は、初期設定でかなり高く設定されています。プリント用紙（反射原稿）の白と、モニターの白を見た目どりにするため、輝度を調整する必要があります。調整範囲は、80～100cd/m²が目安です。ここでは、80cd/m²に設定します。

白色点 5000Kという設定は、写真や印刷物を正確に見るための値です。環境光が5000Kであるなら、白色点の設定も5000Kに設定します。昼白色またはナチュラルカラーの蛍光灯（約5200K）なら、5200Kに設定しますが、厳密な正確さを必要としない一般家庭でプリントするだけなら、5000Kでも問題ありません。

ガンマ ガンマ=2.2が推奨値です。Photoshopを使用する場合はガンマ=1.8でもOK。

STEP 2

モニターのキャリブレーション

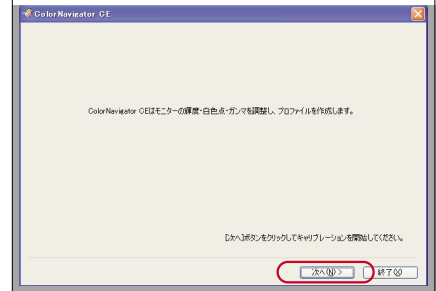
モニターは、購入した状態のままでは使いません。そこで、モニターを作業環境に合わせて調整する必要があります。EIZO CG241Wは、ハードウェアキャリブレーションに対応し、指定の測色器を使って簡単に調整することができます。ハードウェアキャリブレーションを行うには、同梱されている、ColorNavigator CE(*)をパソコンにインストールしておきます。*07年末より、多機能な「ColorNavigator(Ver.5)」の利用が可能です。

1 [ColorNavigator CE]のアイコンをダブルクリックしてソフトを立ち上げます。

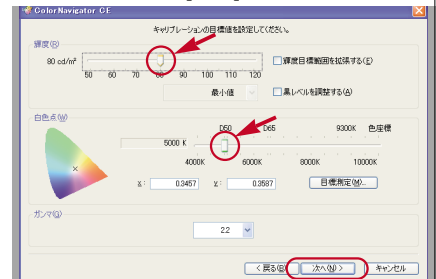
2 測色器をパソコンに接続したら、プルダウンメニューから使用している測色器を選択。



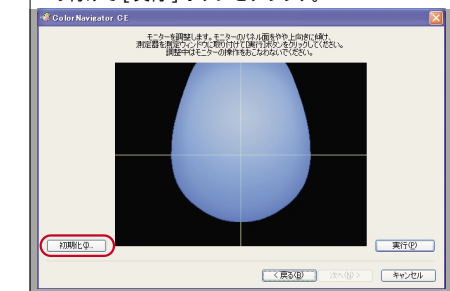
3 プロファイル作成画面が表示されるので、[次へ]をクリック。



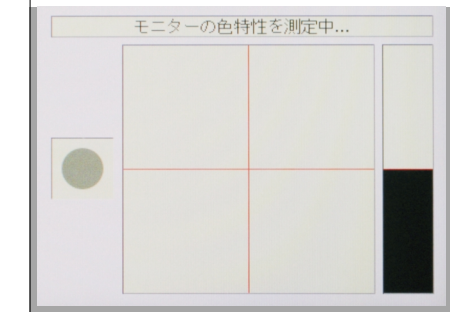
4 キャリブレーションの目標値を設定。輝度：80cd/m²、白色点：5000K、ガンマ：2.2に設定し[次へ]をクリック。



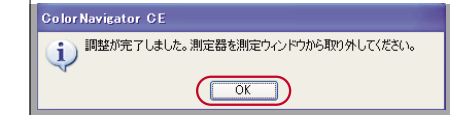
5 測色器の初期化を行ったら、モニターの測定画面に取り付けて[実行]ボタンをクリック。



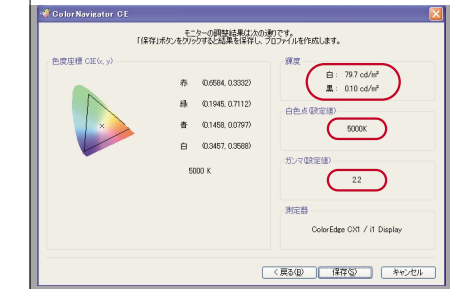
6 作業状況は、モニターに表示されますが自動的に調整されるため、何もする必要はありません。



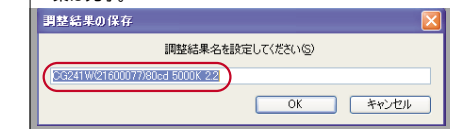
7 作業が終わったら、測色器を画面上から外し[OK]をクリック。



8 調整結果の画面が表示されたら、[保存]をクリックすると、モニターのプロファイルが自動的に作られ保存されます。



9 プロファイルに名前を指定しますが、自動的に名前が表記されるので、このまま[OK]をクリックして作業は完了。



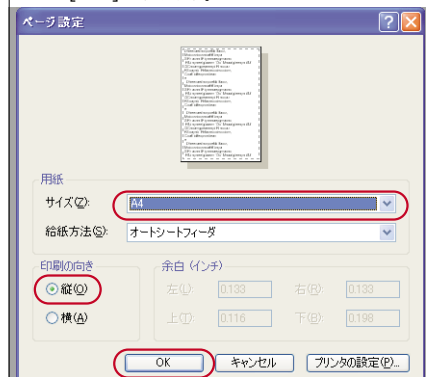
調整作業は、3分ほどで完了し、保存されたモニターのICCプロファイルが運用されます。

STEP 3

Photoshopを使ってプリント

Photoshopは、カラーマネージメントに対応し運用できるアプリケーションソフトです。画像データの色空間（sRGB、Adobe RGB）を適用し、きちんとキャリブレーションしたモニターであれば、見ている画像に限りなく近いプリントを印刷することができます。ここでは、キヤノンPIXUS Pro9500を使用し、ICCプロファイルを適用した印刷の方法を解説しましょう。基本的に、画像データの色空間はsRGB、Adobe RGBのいずれでも手順は同じです。

1 ページ設定
メニューバーの[ファイル]にある[ページ設定]をクリック。使用する用紙のサイズと印刷の向きを設定する。ここでは、A4サイズの用紙を使うものとし、縦位置画像なので印刷の向きを縦とする。設定が完了したら[OK]をクリック。



2 プリントの設定
メニューバーの[ファイル]にある[プリント]をクリック。プリントの設定画面を開きます。



3 画像サイズの調整
プリント設定の画面にあるプレビューを使って、印刷する画像の大きさを決めます。プレビュー画面の四隅にあるパンディングボックスをドラッグして好みのサイズに調整します。



4 カラーマネージメントの設定
フォトショップのカラーマネージメント機能を使ってプリントするための設定を行います。

ドキュメントの確認

ドキュメントには、画像データのプロファイルが表示されます。このラジオボタンは、ONにしておきます[sRGB IEC61966-2.1またはAdobe RGB(1998)]

カラー処理の設定

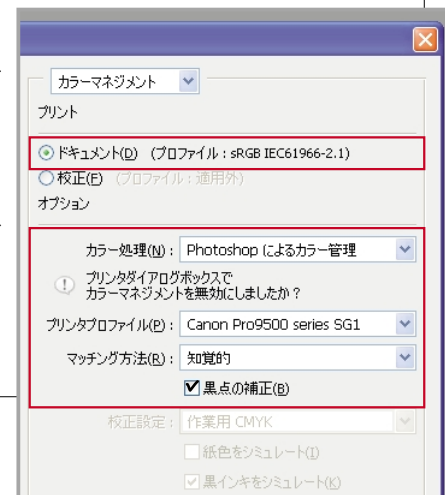
フォトショップのカラーマネージメントを使って印刷するため、カラー処理を[Photoshopによるカラー管理]に設定。

プリンタプロファイルの設定

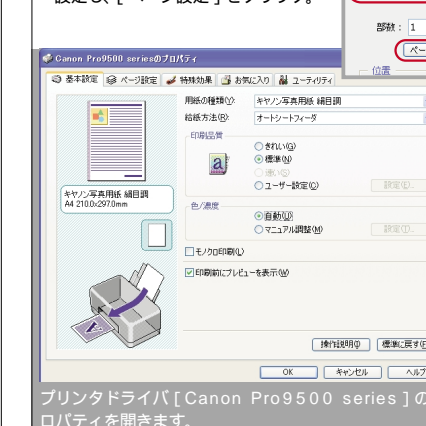
ここでは、印刷で使用する用紙のペーパープロファイルをプルダウンメニューから選択します。ペーパープロファイルは、プリンタドライバをインストールすると同時にインストールされます。ここでは、写真用紙・絹目調を使用するので[Canon Pro9500 series SG1]を選択。

マッチング方法の設定

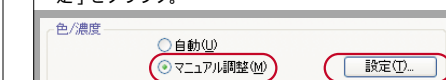
ここでは、マッチング方法を[知覚的]に設定。



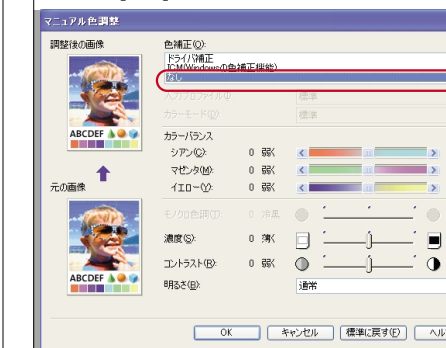
5 プリンタドライバの設定
プリント画面の中で、使用プリンタを[Canon Pro9500 series]に設定し、[ページ設定]をクリック。



8 色/濃度の設定
色/濃度の設定では、マニュアル設定を選択し、[設定]をクリック。

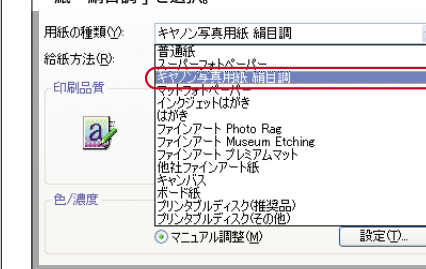


マニュアル色調整の画面では、色補正の設定を[なし]に設定し、[OK]をクリック。



要注意!
Photoshopでカラーマネージメントをする場合、色補正は必ず「なし」に設定すること。他の設定にすると、プロファイルの二重掛けになり、正確な色のプリントをすることはできませんので、十分注意して下さい。

6 用紙の種類の設定
ここでは、プルダウンメニューから[キヤノン写真用紙・絹目調]を選択。



7 印刷品質の設定
印刷品質の設定では、ユーザー設定を選択し、[設定]をクリック。



9 プリント
以上で印刷に必要な設定は完了。[プリント]をクリックすれば、印刷がスタートします。



このように、STEP 1～3までの作業をしっかり行いプロファイルを運用することで、モニターで見たとおり限りなく近いプリントを作ることができます！（斉藤勝則）